

第14日は、幼稚園・中学校・高等学校の3校種から選択して参観を行いました。幼稚園での遊びを通じた教育活動、中学校でのユニバーサルの視点を生かした授業の様子、高等学校での地域と連携した様々な体験活動。“学びの連続性”という視点から、「特別支援学校で何ができるか」を考えさせられる研修となりました。



## C班(小瀬高等学校)【11月7日】

- ・特別進学コース、教養コース、福祉コースの授業参観
- ・研究協議

県立小瀬高等学校は、県内唯一の連携型中高一貫教育校として、常陸大宮市立明峰中学校と連携・交流をしている高等学校です。特別進学コースでは、一人一人の進路に合った学習を、それぞれの学びやすい方法で丁寧に学習する様子が見られました。また、体験学習にも力を注いでおり、地域の人材をゲストティーチャーとして活用しながら、ゴルフ学習や福祉コースのデュアルシステム実習など、多彩な学びを実現しているとお話を聞くことができました。「地域で活躍できる人材を育てる」という点で、特別支援学校でも学ぶことの多い研修となりました。



## A班(高萩第一幼稚園)【11月14日】

- ・戸外遊び、運動遊び、どきどきタイム(リレー)
- ・昼食(園児と会食)
- ・研究協議

「主体的な遊びを通して周囲の環境と直接かかわることにより、幼児期にふさわしい遊びを創造する」という教育目標の下、アットホームな雰囲気の中で先生と園児たちが伸び伸びと活動している様子が印象的でした。遊びの中に、友達や先生との関わり、用具の準備や片付け、役割分担などの意図的な“仕掛け”が多く設定されており、この学びをつないでいくことの重要性を改めて考える機会となりました。



## B班(土浦第二中学校)【11月21日】

- ・特別支援学級、通常学級の授業参観
- ・各学級に入って給食
- ・研究協議、中学校の特別支援教育について

土浦第二中学校では、生徒たちの元気のよい挨拶に迎えられました。すべての学級にプロジェクターが設置され、電子黒板やデジタル教科書、実物投影機などを活用し、授業の中で視覚的な支援がなされていました。また、話し合い活動が多く取り入れられ、生徒同士が活発に意見交換する姿に感銘を受けました。

昼休みは腕相撲をしたり、音楽の話をしたり、中学生のエネルギーを感じた1日でした。

